昭和医科大学江東豊洲病院だより

２０２５年１０月号　第１３８号

巻頭言

集中治療科　講師　／　森（もり）　麻衣子（まいこ）

集中治療科は **全身状態が不安定な患者さんに対して、生命維持と早期回復を目的とした全身管理を行う診療科**です。ICU 内にとどまらず、病棟・院内チーム活動・遠隔医療を通じて患者さんを支えています。

森講師
右から３番目

・**主治医と多職種で協働した全身管理**

主治医と多職種（看護師、薬剤師、臨床工学技士、リハビリテーション専門職、栄養士）の重症治療に特化した資格を持った医療スタッフと一緒に診療科や部門を超えて協力し合い、刻々と変化する病態に対して、全身モニタリングを基盤に多角的な評価を行い、患者さんが１日も早く元どおりの生活に戻っていただくためにサポートしています。

・**病棟での人工呼吸管理**

ICU のみならず、一般病棟における人工呼吸器管理にも関与しています。定期的な回診を通じて呼吸管理の安全性を担保し、ICU 以外で治療を受ける患者さんにも集中治療の知見を活かした支援を行っています。これは、**人工呼吸器関連合併症の予防や、早期離脱を目指した取り組み**です。

・**モニターアラームコントロールチーム**

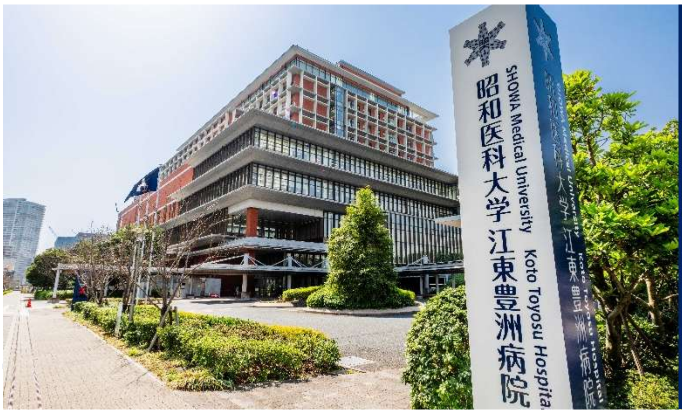
モニターアラームコントロールチームの一員としても活動しています。心電図や酸素の状態を測るモニターは、患者さんの安全を守るために欠かせない大切な機械です。ただし、アラームの設定や装着状態が合っていないと、必要のない音が何度も鳴ってしまい、本当に重要なアラームが目立たなくなることがあります。そこで、アラーム基準の最適化を進め「**必要なアラームを確実に捉える」環境づくり**を行い、安心して治療を受けていただけるよう院内の安全性向上に努めています。

・**遠隔集中治療支援（eICU）**

当院では 2018 年にアジアで初めて、遠隔集中治療支援システム（eICU）を導入しました。昭和医科大学病院サポートセンターに常駐する集中治療専門医・看護師が、リアルタイムに ICU 内の生体情報をモニタリングし、当院の主治医・集中治療科・看護師と協働して診療を支援しています。これにより、患者さんは常に複数の専門家の目で見守られており、**「24 時間体制の二重の安全網」が確保されています**。

・おわりに

ICU という閉鎖空間で医療機器や多くの医療スタッフやアラーム音などの環境によるストレスで、不安を感じられることもあると思います。少しでも安心して治療を受けていただけるよう微力ながら尽力いたします。



第１３８号のトピックス

・巻頭言（集中治療科）
・公開講座連携記事（栄養科）
・DMAT 大規模地震時医療活動訓練に参加しました
・こどもセンターで夏祭りイベントを開催しました
・ご意見・ご要望
・編集後記

Pick up

公開講座連携記事（栄養科）

当院における慢性腎臓病に対する栄養指導

みやなが　なおき
栄養科/ 宮 永　直 樹

―腎臓を守るための食事療法―

腎臓は、体の中の余分な水分や老廃物を取り除き、体のバランスを保つ大切な役割を担っています。しかし、腎臓の働きが弱まると、食事の内容が病気の進行や体調に大きく関わってきます。そのため、慢性腎臓病に対する食事療法は薬物療法と同じくらい大切な治療の一つとされています。

慢性腎臓病の食事療法は腎機能の低下を抑え、透析治療の開始を回避することやできるだけ遅らせることを主目的として行われます。その食事療法の基本は「十分なエネルギーの補給」、「たんぱく質制限」、「食塩制限」が基本となります。特にたんぱく質制限は腎臓への負担を減らし、病気の進行を抑える効果が期待されます。しかし、たんぱく質制限と聞くと 10 月の公開講座でも取り上げる予定のフレイル・サルコペニアなどの筋肉量や筋力の減少を心配される方も多いと思います。しかし、たんぱく質以外の栄養素で十分にエネルギー補給することができればフレイル・サルコペニアを予防しながらたんぱく質制限を行うことが可能です。

―慢性腎臓病における食事療法のサポート体制―

当院には、全国に 79 名しかいない「腎臓病病態栄養専門管理栄養士」が在籍しています。腎臓病に特化した専門的な知識と経験をもとに、患者さん一人ひとりの体調や生活スタイルに合わせた、きめ細やかな栄養指導を行っています。

さらに、当院では慢性腎臓病に対する栄養指導に併せて 24 時間蓄尿検査を行っています。これにより、実際にどれだけのたんぱく質や食塩をとっているのかを数値で把握することができます。慢性腎臓病の食事療法ではたんぱく質制限や食塩制限が十分に実行できていなければ、その効果が十分に発揮されません。24 時間蓄尿検査による客観的な摂取量の確認と管理栄養士のサポートによって、実施すべき食習慣の改善点が明確となり、治療効果のある食事療法の実践につながります。

栄養指導の実施には医師の指示が必要になるため、慢性腎臓病に対する食事療法に興味がある方は担当医にご相談ください。これからも食事療法を通じてみなさんの健康をサポートしていきたいと思います。

栄養指導

Report

DMAT 大規模地震時医療活動訓練に参加しました

DMAT 隊員/木原（きはら）　陽子（ようこ）

９月６日に令和７年度大規模地震時医療活動訓練に隊員５名が参加しました。

今回は日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震により北海道・青森・岩手・宮城に甚大な被害が発生したと想定された訓練です。東北自動車道岩手山 SA に参集後に八戸・上十三医療圏 DMAT 参集活動拠点本部が置かれている YS アリーナ八戸（青森県八戸市）へ移動し、病院支援の指示を受けて八戸市立市民病院に向かいました。

支援先病院ではあらゆる情報収集を行って、被災地内の医療機関の稼働状況や災害医療に関わる情報を共有する事が出来る EMIS（広域災害救急医療情報システム）の代行入力を行いました。病院支援を行った後は、活動拠点本部の YS アリーナに戻り、人員が不足している三沢市立三沢市民病院へ向かうよう指示を受けて移動した所で訓練終了となりました。

今回の訓練では活動範囲も広く、移動に多くの時間を要しました。移動中にも適時情報収集を行い、状況把握に努めていました。災害発生時には正確な情報収集を行って、関係機関と連携しながら活動していけるよう努めて参ります。

左から、髙田業務調整員、木原看護師、佐々木医師、平山看護師、澤口業務調整員

こどもセンターで夏祭りイベントを開催しました

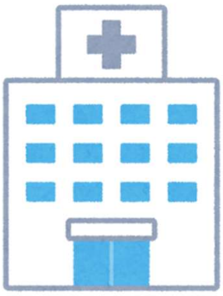
こどもセンターでは、こどもにかかわるスタッフとみんなで、病気やけがで入院しているこどもたちが闘病意欲を持てたり、少しでも楽しい気持ちで入院生活を送れるように季節のイベントを行っています。

病棟内でも季節を感じられるよう、今年度はセンター内で夏祭りイベントを開催しました。当日は提灯飾りで彩られた室内にヨーヨー釣りや射的の屋台が並びました。こどもたちも笑顔で参加しており、病棟内がお祭りらしい賑やかな雰囲気に包まれました。

当日の様子

ご意見･ご要望

感謝	回答
こちらの病院では時々お世話になっております。毎回とても親切にしていただき、医師、看護師、そのほかの方々へ感謝と御礼を申し上げます。皆様のご無事をお祈りいたします。	この度は温かいご意見をいただきありがとうございました。スタッフ一同、大変励みになりました。 今後とも、皆様に安心してご利用いただける医療機関であり続けられるよう、職員一同、努力してまいります。 残暑厳しき折、どうぞお身体を大切にお過ごしください。



編集後記

今年の夏はとても長く、９月に入っても 30 度を超える日が続きました。10 月に入り、ようやく気候も落ち着き、朝夕の風に秋の気配を感じるようになりました。身も心もホッと一息入れる余裕が生まれますね。

「天高く馬肥ゆる秋」という言葉の通り、空は澄み渡り、陽ざしも柔らかくなってきました。空を見上げると、雲の形や光の色にも季節の移ろいが感じられます。病院の庭にも、少しずつ秋の風景が広がり始めています。

当院１階の売店の前にある出入り口から中庭に出て、すぐのところに楓（カエデ）の木があるのはご存じでしょうか？今の季節、もみじの葉が少しずつ赤く色づいていく様子が見られます。緑から赤へと変化する葉のグラデーションは、自然が描く美しい絵のようです。風に揺れる葉を眺めながら、季節の深まりを感じてみるのも良いかもしれません。

ようやく訪れた過ごしやすい季節、どうぞ皆さまも体調に気をつけながら、秋の空気と景色を楽しんでお過ごしください。

リハビリテーション室　／　千賀（せんが）　浩太郎（こうたろう）

昭和医科大学江東豊洲病院　http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/
〒135-8577 東京都江東区豊洲 5－1－38
TEL03－6204－6000(代表)
発行責任者：横山　登　　編集責任者：大槻　克文
昭和医科大学
SHOWA Medical University
昭和医科大学江東豊洲病院
ホームページ
SHOWA Medical University KotoToyosu Hospital